



は じ め に

理科における分野別興味・関心の経年変化の調査（「群馬県における理科教育の充実を図るための調査研究」群馬県総合教育センター 平成 15 年）によると、中 1・小 6 から地学分野が嫌いになった児童生徒の割合が、他の学年に比べて最も多いことがわかりました。この時期は、「大地や土地の変化」について学習するところです。

学習内容の理解度の調査では、大地の変化の単元の授業がつまらないと感じている児童生徒の 50 %以上が「授業が分からなかった」「どちらかというと分からなかった」と回答しています。

また、学習指導の調査（同研究調査）で、小学校教師の 49 %が、中学校教師の 52 %が、地学領域について指導しやすいと思っておらず、その理由として「専門知識への不安」を主に挙げています。

大地の変化の学習は、観察する対象が近くになく、実物を観察することが難しく、児童生徒にとって学びづらい単元です。教師にとっても、興味・関心はあるが指導しにくい分野でもあるといえます。

そこで、これらの課題を解決するために、大地の大きな変化である身近に発生した自然災害に視点を当てた指導資料を作成しました。